

環境目標

取り組みの背景・考え方

地域および地球規模の環境保全は、エネルギービジネスを中心に事業を展開するDaigasグループにとって極めて重要な使命です。当社グループは、「企業行動憲章」「企業行動基準」「環境方針」に基づいて、環境保全活動を推進しています。事業活動に伴う温室効果ガス削減、資源循環等に関する中期環境目標を設定して、天然ガスの普及拡大、燃料電池等の高効率機器の開発・普及、省エネルギー提案、再生可能エネルギーの導入等を積極的に進めてきました。また、世界的な気候変動対応の潮流を踏まえ、低・脱炭素社会の実現に貢献するため、事業活動を通じて発生するCO₂やメタン(CH₄)などの温室効果ガス排出量の削減に取り組んでいます。液化天然ガス(LNG)の輸送段階や、都市ガスの製造段階、発電段階におけるCO₂排出量の削減、事務所での省エネルギーに関する様々な取り組みを積極的に進めています。

また、脱炭素化潮流がさらに加速し、世界経済の停滞やエネルギー市場におけるボラティリティの高まりが顕在化するなか、国のエネルギー政策の基本方針である“S+3E^{*}”の観点からもエネルギーの安定供給・保安の確保とエネルギーのカーボンニュートラル化の両立が重要と考えています。

2021年1月には「カーボンニュートラルビジョン」、同年3月には「中期経営計画2023」を発表し、低・脱炭素化をさらに推進しています。2023年3月には「エネルギートランジション2030(ET2030)」を発表し、エネルギーの低・脱炭素化への移行に向けた道筋の全体像を示しました。中長期目標に向け、気候変動対策への取り組みを加速させていきます。

「Daigasグループ環境方針」「中期経営計画2023」に基づき策定した「環境目標」および活動実績は、以下のとおりです。

※S+3E：安全性(Safety)、安定供給(Energy security)、経済効率性(Economic efficiency)、環境性(Environment)

■ 環境目標・実績 ビューローベリタスジャパン(株)による第三者検証済みです(※が検証対象項目)

分野	項目	目標	目標年度	2022年度実績		
気候変動	グループCO ₂ 排出量 [*]	CO ₂ 排出量実質ゼロ	2050年	2,598万トン		
		2,702万トン [*] (2017年度比 ▲500万トン)	2030年	2,505万トン		
	自らの事業活動でのCO ₂ 削減	再生可能エネルギー電源比率	50%程度	2030年	13.0%	
		再生可能エネルギー普及貢献量	500万kW	2030年	211.0万kW	
	250万kW		2023年			
お客さま先・バリューチェーンのCO ₂ 削減	<ul style="list-style-type: none"> 天然ガスや再エネ等、高効率・高付加価値の機器普及により、低・脱炭素化を推進 LNG船の効率的な運航、低公害車等の利用拡大 高品質な、情報・不動産・材料分野の各ソリューション普及による環境価値の提供 		2030年まで毎年	主な取り組みは□□P.43-44をご覧ください		
社会へのCO ₂ 削減の貢献	CO ₂ 排出削減貢献量(お客さま先や海外での削減貢献も含む) [*]	1,000万トン(2016年度基準)	2030年	386万トン		
資源循環	自らの事業活動での3R	大阪ガス(ネットワーク会社、基盤会社含む)	産業廃棄物・一般廃棄物(最終処分率) [*]	2%以下	2030年まで毎年	1.0%
		導管工事掘削土(最終処分率) [*]	1%以下	0.1%		
		PE管(リサイクル率) [*]	100%	100%		
		ガスメーター(リユース率) [*]	98%以上	98.7%		
		関係会社	産業廃棄物・一般廃棄物(最終処分率) [*]	4%以下		3.6%
	バリューチェーン	お客さま先や事業活動での使用済み機器等の3Rを推進する			主な取り組みは□□P.48-50をご覧ください	
生物多様性	「Daigasグループ生物多様性方針」に基づき、事業活動において生物多様性に配慮する		2030年まで毎年	主な取り組みは□□P.51-54をご覧ください		
技術開発	社会の低・脱炭素化に貢献し、強靱な事業基盤を支える技術開発を推進する		2030年まで毎年	主な取り組みは□□P.55-57をご覧ください		
グリーン調達・購買	お取引先と連携したグリーン購買や「グリーンパートナー制度」の推進等を行う		2030年まで毎年	主な取り組みは□□P.89をご覧ください		

※ 国内サプライチェーン(スコープ1・2・3)における排出量(「ET2030」で新たに2030年度目標を設定)